

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
G301	都市経済学 I	3年	講義	2	吉田 肇
授業概要 本科目では、都市経済学のうち、都市構造を構成する主要な経済主体の動向について、立地論とその応用を中心に学習し、基本的・普遍的な知識を習得するとともに、様々な経済主体が立地展開するメカニズムについて、理論と日本の都市の事例を中心に参考にしながらか様々な情報を収集・整理・創造しうる能力を育成する。					
到達目標(学習の成果) ① 都市に生起する諸課題を分析・比較検討でき、様々な経済主体で構成される都市活動に係る歴史的経緯と学際的知識を理解し説明できること。(DP2) ② 様々な立地論や事例を参考として、都市の発展について経済学的なアプローチで思考できること。(DP3) ③ 経済環境と調和した地域社会づくりの方策や手法を理解したうえで、様々な情報の収集・整理を行い、新たな情報として創造する能力を備え、自分の思いを述べるができること。(DP3)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	都市経済学と立地論	「都市経済学 I」のアウトラインについてのガイダンスとともに、都市経済学における立地論の位置づけについて学ぶ。			
2	なぜ、都市ができるのか	自給自足経済の農村地域から地域特化に向かい、都市と農村地域へと分化していく形成過程について学ぶ。			
3	農業立地と土地利用	都市からの距離に応じて主要生産物が同心円構造に存在することを示した、チューネンの農業立地論とその応用について学ぶ。			
4	工業立地と産業集積	原材料を加工し、製品を生産する工業がどこに立地するのが経済的かを考えた、ウェーバーの工業立地論とその応用について学ぶ。			
5	小売業の立地戦略	商店などを出店する際の立地戦略を指摘した、ホテルリングの商業立地モデルとその応用について学ぶ。			
6	都市型産業の立地	都市を市場基盤とする多様な産業のうち、代表的な都市型産業である情報サービス業の立地について学ぶ。			
7	人口移動と商圈分析	地域間の人口移動は、これらの地域の人口の大きさに比例し、その間の距離に反比例するとする重力モデルとその応用について学ぶ。			
8	都市サービスと中心地形成	中間試験(範囲:講義第1~7回)を実施し、その解説を行う。 また、財・サービスによって市場圏の大きさが異なることから導かれたクリスタラーの中心地理論と実際の都市圏の実態について学ぶ。			
9	都市の規模と階層化	都市人口の順位と規模の間に一定の関係が見られるとする経験則である、順位・規模法則とその応用について学ぶ。			
10	都市化の進展と経済発展	DID(人口集中地区)の定義と都市化の進展が及ぼす社会・経済影響を整理する。そして、栃木県や宇都宮市など地方における都市化の進展について学ぶ。			
11	産業構造と脱工業化社会	経済発展につれて産業構造が第一次産業から第二次、さらには第三次産業へ移行していく経験則である、ペティ=クラークの法則と今後の脱工業化社会について学ぶ。			
12	場所のチカラと立地戦略	産業クラスター(産業集積)が競争力を持つための4つの条件をモデル化した、ポーターのダイヤモンドモデルとその応用について学ぶ。			
13	商業形態と商業集積	様々な店舗形態別小売業の登場と商業集積の実態、立地論から見た商店街問題とその事例について学ぶ。			
14	コンビニの立地戦略	当初は市街地を中心に店舗展開したが、最近では都市周辺の住宅地やロードサイドにまで展開するコンビニエンスストアの立地について学ぶ。			
15	公共サービス施設と都市機能の配置	公共サービス施設の立地原則と適正配置の考え方、望ましい都市機能の分担について学ぶ。			

準備学修(授業外の自己学修)

- ・東京圏に近い宇都宮市においても、中心市街地や郊外を取り巻く環境が大きく変わりつつあるため、日頃から地域の施設立地などの身近な動きを観察したり、新聞の地方面やテレビニュースなどから関連情報を得るなど、都市経済に関するアンテナを高くして関心や知識を高めておくこと。
- ・人の経済活動はある程度合理的な選択や行動によって成り立っている。宇都宮市役所の Web サイト「宇都宮市統計データバンク」(<http://www2.city.utsunomiya.tochigi.jp/DataBank/index.htm>)では、人口をはじめとする宇都宮市の主要な統計データが簡単に入手できるので、興味を持った分野を例に取り上げて関連する数字を追いかけてみると、都市の現象が実感をもって見えてくるものがある。
- ・テレビの経済報道番組(例:NHK-E テレビ②『オイコノミア』水曜 22pm～, テレビ東京⑦『ガイアの夜明け』火曜 22pm～など)から、経済的なものを見かたをしてみる。

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末の定期試験(60%), 中間試験・小テスト(10%) 及び出席・授業態度(30%)に基づいて、絶対評価で判定する。

観点	S	A	B	C
都市活動に係る歴史的経緯と学際的知識の理解	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
都市の発展について経済学的なアプローチでの思考	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
様々な情報の収集・整理を行い、新たな情報として創造し、自分の思いの表現	完全に表現できている。	ほぼ完全に表現できている	十分に表現できている	一定程度表現できている

教科書

本科目では使用しない。毎回、講義内でコピー資料を配付する。

参考書等

- ・「都市・地域経済学への招待状」, 佐藤康裕(著), 有斐閣ストゥディア, 2014年, 1,944円(税込)
- ・「ベーシック+ 地域政策」, 山崎 朗 (著), 杉浦 勝章 (著), 山本 匡毅 (著), 豆本 一茂 (著), 田村 大樹 (著), 岡部 遊志 (著), 中央経済社, 2016年, 2,592円(税込)
- ・「すごい立地戦略 街は、ビジネスヒントの宝庫だった (PHPビジネス新書)」, 榎本 篤史(著), PHP研究所, 2017年, 940円(税込)

履修上の注意・学修支援

- ・都市経済学は、日常生活にきわめて関係の深い分野を対象にしている。都市現象に関する様々な疑問を、経済学の観点から考えてみようという内容であり、意欲を持って取組んでほしい。
- ・従って、欠席や遅刻、私語やスマホ操作が多い場合には意欲がないものと解釈される。
- ・学修内容に関する質問や意見など、毎回配付する「聴講カード」に具体的に記入すること。出席・授業態度の判断材料の1つとするとともに、寄せられた質問や意見は、実際に講義の中でも取り上げ、受講者全体にフィードバックします。